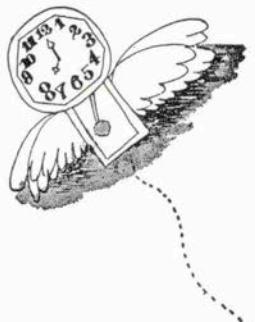


神戸百店会
だより



★市野治行さん

はじめての個展

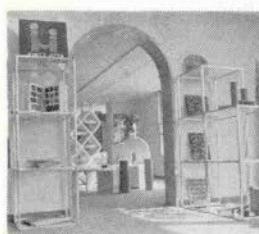
若いセンスで伝統の立杭
焼に取組んだ新進の陶芸作家、市野治行さん(25才)の個展が11月21日から三宮



色や図柄にモダンな感觉が

岩淵重哉さんの内弟子として3年間陶芸を学んだ。今は故郷の立杭で製作に打ち込んでいるが、お父さんがやはり立杭の陶芸家市野弘之さん。

市野さんは工業デザイナー志望で大阪芸術大学を卒業したが、焼きものの奥深さに魅かれ、京都の陶芸家岩淵重哉さんの内弟子として3年間陶芸を学んだ。今は故郷の立杭で製作に打ち込んでいるが、お父さんがやはり立杭の陶芸家市野弘之さん。



イリフネサンブルルーム



中村幸子さん

小川悦子さん

青が基調の小川悦子さん、黄とオレンジの中村幸子さんの油彩画で、二人は二紀会の宮地孝さんに師事、新協美術展や神戸市民美術展に入賞、それぞれの個性を発揮している。



ロマンチックなパピヨット

施主に便宜がはかられていた。「施主の商売のお手伝いをしたい」というイリフネの心であろう。素材メークのショールームにない、トータルなイメージと品揃えが魅力である。

同時にグランデ六甲ビル1・2階の家具・室内装裝品売場も拡張された。

内装材サンブルルーム

灘区新在家北町1丁目1の19(阪神新在家駅南)ブリコビル2F
電851・3191

★お茶を飲みながら絵が楽しめます

さんちか風月堂喫茶部の中若い女性二人の作品が飾られている。

ルナ・ピナコティカは12月

中若の女性二人の作品が飾

られている。

さんちか風月堂喫茶部の

中若い女性二人の作品が飾

られている。

さんちか風月堂の

中若い女性二人の作品が飾

られている。

さんちか風月堂の

中若い女性二人の作品が飾

られている。

さんちか風月堂の

中若い女性二人の作品が飾

られている。

さんちか風月堂の

中若い女性二人の作品が飾

られている。

●ショットピックス

★大丸前永田良介商店のフルスリップで見つけました。赤、黒、ベージュ、茶、緑と五色そろってて軽くてはきよ

さそうな感じ。家で一人ずつ色を

選んではいたり、インシャル

ツブリケをして、プレゼントなどの

マキシムはアーロードのものな

ど。コートに合わせて選べます。

どちらも一八〇円です。

仮店舗は下山手通2-1-26

二号ビル(電331-6711)

★トアロードのインテリアサロン

黒、深い茶、グリーンのものな

ど。コートに合わせて選べます。

ちよつと大きめで後ろに垂れる感

じの、おしゃれなベレーのいろん

や黄色のが揃っています。オレンジ

や黒といったカラフルなものや、

マキシムはアーロードの店が改

め、今は仮店舗ですが、改

81-8500)が12月に
さんちかタウンの三菱ホー
ムコーナーギヤラリーで個
展を開き、その華やかな手
造りの花が話題になつた。



まいどありがとうございます

毛皮をテーマに、染色し
た皮の微妙な色あいの大輪
のバラ、ミンク(!)のしつ
ほの毛皮から作つたという
可憐なあざみ、デニムの布
地のおもしろさを生かした
ポピーなど、どれも長瀬さ
んのセンスあふれる大作。

★製造直売、店主じきじき
神戸まつりの時のフリーメー
ケットを、そつくりひ
つくるめて持つてきたみた
いな楽しい店が昨年11月に

アートフラワーの世界を広
げる新鮮な感動があつた。

★製造直売、店主じきじき
の日の昼に関西のサッチャモ
と呼ばれる伊藤隆文さんを

中心とした番組がサンテレ
ビで制作され、そのため



自作の花にかこまれ、長瀬律子さん

「休みの国」オリジナルの
ほかに ONE WAY の服
e g のニット、LON の
皮バッグ、W & A の七宝、
BASCKETBALL - TEAM の草木染めの木綿
のシャツなどどれもハンド
メイキングで、大切に心こ
めて作られたものばかり。
ほかに昔なつかしロウセキ
やビーズ玉、木の羽子板と
羽根など見つけてうれしく
なつてしまふ。ドライフラ
ワーの作り方の秘訣なども
聞くこと!

休みの国(生田区三宮町2の25
三宮本通りのまだ一本の細い通り、
山登りやスキーアイテムの「山小
屋」☎ 三九一-一〇三二六
明石で熱演!

★デキシーの南里さんが
三宮から三十分の明石の
駅前にあるミュージックイ
ン「ボッサ・リオ」で十二
月五日(木)トランベット
の南里文雄さんを迎えての
セッションが開かれた。こ

の生演奏が毎週月・木・土
曜の夜に行なわれている。

★天秤"粒"の同人とし
て活躍する詩人の伊田耕三
丁目2ノ12が、このほど
詩集「梅」を「天秤」から
発行した。

梅、第三の隣人、旧詩帖
は、三周忌を迎えた亡き夫

できぱかりのこの「休み
の国」。店主は彫金の人形
やアクセサリーを作つてい
る鶴山啓三さんと、白い顔
で金髪の愁わしげな人形を
作つてゐる智子夫人。ほか
にすごいデニムのエプロン
やアクリルで店の奥の仕事場で精
出している浦上くん。

来神した南里さんが、その
まま明石へ足をのばしての
セッションとなつた。



サンテレビで演奏中の伊藤さんら

美術ガイド



★兵庫県立近代美術館	アートナウ75	1	1
「フジタの時代」	1	5	1
★南蛮美術館	25	1	1
★白鶴美術館	25	1	1
3月中旬まで休館	2	2	2
館蔵品展	1	1	1
高級茶道具展	1	1	1
土宗英水墨画展	1	1	1
日本画・洋画小品展	1	1	1
龍村美術織物展	1	1	1
九星会日本画展	1	1	1
大丸・百貨店四階美術画廊	1	1	1
正月おもちゃ大場	1	1	1
第10回さんちか大会	1	1	1
新春を寿ぐママの花展	1	1	1
「ボッサリオ」のメンバーを	1	1	1
バックに「演奏」始めると	1	1	1
二十も三十も若くなる」と	1	1	1
いう南里さんの名演奏、南	1	1	1
里節を、十時半までほとん	1	1	1
ど休みもなく、店内いつば	1	1	1
いのファンに満喫させてく	1	1	1
れた。なおミニージックイ	1	1	1
ン「ボッサ・リオ」では、	1	1	1
伊藤隆文さんを中心として	1	1	1
の生演奏が毎週月・木・土	1	1	1
曜の夜に行なわれている。	1	1	1

★ギャラリーさんちか	吉野	1	1
「吉野」—その懐の山河—	1	1	1
★さんちか広場	28	20	13
第5回紅蘭会書作展	1	1	1
久本弘近作油絵	1	1	1
日本水彩画会・関西水彩画会兵	1	1	1
県会員会友展	1	1	1
★KCCアートギャラリー	23	15	8
グラン・サンク(ル・サロンの審	1	1	1
査員五人展)	1	1	1
宮脇成之 船 花 女版	1	1	1
★KCギャラリー	21	12	7
神戸川柳協会色紙展	1	1	1
主催美術協会会員展	1	1	1
第一回グルーブ	1	1	1
第16回名士賞状展	1	1	1
小西茂個展	4	1	1
★ぎやく個展	1	1	1
伊田文明版画展	9	1	1
吹田文明版画展	1	1	1
アルファエイトグ	1	1	1
久川百合子個展	1	1	1
二十代の作家による	1	1	1
1 タブレット	1	1	1
21ブロード	1	1	1
2 展	1	1	1
2 1912	1	18	2922
1912	15	8	15

人伊田コノエさんによせる詩で、子宮ガンに蝕ばまれた夫人の闘病生活と死、そしてやもめ暮しの中から、苦しみと孤独を越えて、夫婦愛の浄化した強く深い姿がみられる美しい詩だ。

(発行所 天秤 神戸市灘区畠原2丁目2番12号 郵便番号180-10871 振替神戸四四五四一 領価千円)

★ねこが十二支には残念だにやー

日本猫愛好会（本部・金沢市荒屋町）のねこ文庫第21集「猫を訪ねて」が出版された。同愛好会は、全国の猫好き四百名の会員から成り、毎月の機関誌「ねこ」（菊版・一二ページ）は一三〇号をこえる。このたび出版された「猫を訪ねて」



時計花



地域社会の時代

いよいよ昭和50年の年のはじめだ。いったいどんなことになるのだろうか。いつさいの予測はつかない。

だが、何となく、めでたさよりも緊張感から逃れられない不思議な感慨

充実した地域社会、地域文化は国際的な広がり

をもつことによってさらには素晴らしい輝やきが加わるであろう。

にとらわれる。これは日本人のほんとうに悪い癖かも知れない。

この年代はコミュニティ時代の幕開の年代だと

豊かな人間環境のなかに育まれる魅力ある地域社会づくりの年代でありコミュニケーションの花開く時代であると思われる。

いいたい。

もう、中央偏重の時期は過ぎようとしている。

そして情報化社会はますますその密度を加えることになる。

情報は地域社会のなかでこそ育つものであると

いうこと、地域文化のなかでこそ創造されるのだからことをもう一度確認する年にしたいものである。

（Y）

四一二一九六七

★俳句とは何かの手引き

青玄から刊行

俳句誌「青玄」の創刊二

十五周年を記念して青玄俳

句会から「俳句に関する百

十章」が刊行された。同

書は、伊丹公子、たむらち

員・福田忠次ら二十七

名の執筆から成り、俳句を

季・定型・現代語の一一行詩

とする在来派に対し、超

季・定型・文語の一一行詩

のが、俳句現代派であると

しての新しい軌道に則つて

の解説書となつてゐる。

「俳句に関する百十章」

青玄叢書65著者代表・伊

丹三樹彦 新書版 八百円

「猫を訪ねて」福田忠治著、

日本猫愛好会発行、ねこ文

庫21 78頁 非売品、連絡

先 TEL八

657灘区大和町2の1

福田忠次

（Y）

KOBE POST

★音楽評論家小石忠男さん（音楽クリティッククラブ）が、「世界の名指揮者」と題した本を音楽之友社から十二月中旬に出版され、その出版記念パーティが、十二月十九日大阪フェスティバルホール地下「レストラン・シャトウ」で開かれ、音楽仲間が出版祝って集いました。

★本誌連載の小説「まだ遅くない」執筆中の葉月一郎さん（朝日新聞大阪本社編集委員重森守さん）に美女誕生、小説の女主人公アヤ紀と同名ということです。おめでとう。

★漫才で活躍中の西条美見さんが和子さんと結婚されて十ヶ月、二月末から五色塚古墳があり淡路島も見えるスイートホームへ転宅しましたとのお知らせがありました。

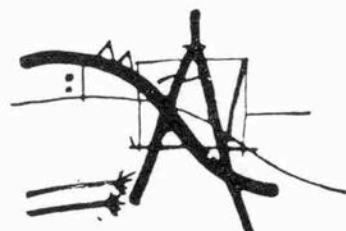
★漫才で活躍中の西条美見さんが和子さんと結婚されて十ヶ月、二月末から五色塚古墳があり淡路島も見えるスイートホームへ転宅しましたとのお知らせがありました。

★朝日放送の西村真一郎さんが、このほど野田弥生さんと結婚されました。新居は、芦屋市大原町20ノ22番40号（〒659）です。

★飛行船ファン集れ! とツエッペリンクラブ事務局（東京都港区芝居ノ内15虎ノ門ビル10F）1号室山王書房内（〒103（五一）八五二）から入会のお誘いがありました。岡本太郎会長、木村秀政日大教授、田中新造、真鍋博さんなどが集つて日没「飛行船時代」の到来を期して、研究、利用面の探求を行っているとか。あなたも参加しませんか?

★クラブ阿波子の小島阿波子さん、が、十二月七日をもってお店を開店されました。可愛い人気もののママの姿が見られなくなるのは淋しいことですね。ごくろろさま。

額縁絵画・洋画材料
室内工芸品



末積製額

三宮・大丸北
トア・ロード
331 1309-6243

A HAPPY NEW YEAR



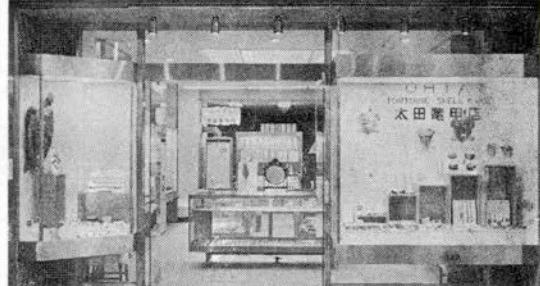
ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！

三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

139

太田鼈甲店



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195

賀 正

旧年中は格別の御引立を蒙り
厚く御礼申し上げます
本年も相変わらず倍旧の御愛顧の程
御願い申し上げます

昭和50年元旦

北欧の銘菓
ユーハイム・コンフェクト

- 本社・工場・熊内店 神戸市垂水区熊内町1-8-23(市立美術館東隣) ☎221-1164
- 三宮センター街本店 神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) ☎331-2421
- さんちか店 神戸三宮地下街スイーツタウン ☎391-3558
- 神戸阪急・大丸・そごう・三越店・元町店 神戸デパート店・垂水店

高級紳士服専門店

神戸テーラー



さんちかメンズタウン TEL (391)0388
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL (331)2817・3173

おすし
てんぶら



火
祭
彌



本店

大丸前・三宮神社東

TEL (331) 56772

T E L (391) 5233
(毎週水曜日休み)
(第3水曜日休み)

支店

さんちか味ののれん街

営業時間
A.M.11:30~P.M.9:00

A HAPPY

NEW YEAR

賀正

やつぱりうまい
むさしのどんかつ

おもちゃの
カメリヤ

三宮方面でのお買物は…
さんちか店 ファミリー タウン 391-4045
三宮店 市街地改造のため仮店舗にて営業中
元町方面でのお買物は…
元町店 元町通3丁目山側 331-0090
パンプク店 元町通1丁目不二家前 391-0768
神戸駅前方面でのお買物は…
サンこうべ店 神戸駅前地下街 351-6002

五反田

コアベ三宮
ムサシ
でんわ・
321 321 331
○六三五
○六三七
一三七七一

まだ遅くな

葉月一郎

え・小西保文

(題字も)

16／逆流

一陣の嵐のように、吹き荒れるだけ暴れると、有野は肩をゆするようにして去つてゆく。

「わざわざ忠告に来たんやからな。それ相応のご返事を期待してまっせ」

それが、捨てぜりふだった。

「支局長」

巨体を眼で見送ると、ソファに近寄る。表情の裏側を

読みとろうと、みつめる。

しかし、石津支局長は、細い眼をいつそう細くしただけだった。タバコの煙が、さらにヴェールをかけた。

「吉良画伯の絵、見たか」「まるで、有野の来訪などなかつたような遠い眼が、そこについた。

「あの絵だけでも、紙面に出したいなあ」

涸れた声が、戸波に届く。

「絵だけ？ それ、どういう意味です」

〔あらすじ〕昭和四十五年秋。神戸に君臨する大企業、兵庫製鉄（兵鉄）の公害をなくしようと、毎朝新聞神戸支局がキャンペーン企画、取材をすすめていた。石津支局長のすすめで戸波記者は怠惰な日常をふり捨てて参加、仕事への情熱を日々にわかせてゆく。翌紀子は会社首脳の新鉄秘書課の細川亜紀子と次第に心をひかれあう。亜紀子は会社首脳の新聞社対策などを戸波に知らせて協力し、ある夜、誘われるまま六甲山のホテルへ同行する。そこで亜紀子は、新聞記者だった兄が、誤報記事を書かれて自殺したことを見た。二人は結ばれぬまま一夜を明かす。一方、兵鉄の和久井支局長らとの会見でも高姿勢の答弁を繰り返す。花房秘書部長を中心に関連社工作もすすめ、広告の掲載とりやめなどの圧力をかける。キャンペーンの原稿が出てそろつたころ、兵鉄に近い市会議員の有野も支局へ乗りこみ、取材をやめるように申入れる。



返す。

「う？ うむ」

薄く、かけりのある微笑が浮かんだ。

「ひょっとすると、君らの原稿より、あの絵の方が迫力があるぞ。そういいたかつたんや」

「いや、しかし……」

聞き捨てならぬことばではないか。そんな想いで聞いていた。

泉田次長が寄ってきた。

「えらく元気のいいセンセイだったなあ」

泉田は、有野の名刺をつまみあげていった。

「あれも、兵庫製鉄さしまわしですかな」

「いや、そこまでかんぐるのは兵庫製鉄に失礼やろ」

支局長は、タバコをひねりつぶすと、投げやりな口調

にかえっていた。

「自発的に、善意で、押しかけて来たと見るべきやな。

インスタントコーヒーぐらい出して上げればよかつたかな」

話題が有野の方へ戻ってゆくのを、戸波はいらだしく聞いていた。

なにか、ある。

たしかに、なにかが支局長の胸にのしかかって来ているに違いない。「絵だけでも」というひと言は、その状況

をはしなくも表現しているのではなからうか。

巨大な、しかも眼にみえぬ風圧に、支局長は一人で耐えている。押し返そと苦闘している。そんな気がしてならない。

「新聞が売れんようになるゾ、とセンセイがいってましたな」

泉田は肩をすくめていった。
「お、そうや、地元の販売店に聞いてみてくれたか」「ええ、それとなく打診したんですけどがね、記事のこと

文句が来たら、支局へ行つてくれといふことにします。まあ遠慮なく何でも書いて下さい、といつてましたよ」「うん、それでいい。それでいいんや」「しかし、連載が始まつたら、部数が減るんじやないでしようか」「さあ、どうかな。いつたん減つて、それから次第にふえる。そういうものをつくらにやいかんなあ」

支局長と次長。トップ二人の会話が、さりげなく続いている。

態勢をつくり、陣地構築を終え、なお領土内での布石

を固める。それは参謀本部の作戦会議にも似ていた。

だが、戸波の心の底に芽生えている、この形容しがた

い不安は、どう解きほぐしたらいいのだろうか。

「支局長、本社は、大丈夫ですか」

口に出してみる。

「本社が、どうした」

「つまり、その、圧力がかつて……」

「あのな、本社はな、いま送つてる原稿、すぐに小ගラにして、箱組みしておくといつてたよ」

連載開始の前日まで待たずに、すぐ活字にして一応組んでみる。——それは、本社側の反応のよさ、つまり意欲を示していることになる。

「そうですか。そりや、よかつた」「つまらんことに神経使うから、若いくせに頭髪^{あたま}、薄うなるんや」

あ、痛い、と頭を抱えてみせた戸波の姿に支局長は声を上げて笑つた。だが、その高い笑いの響きに、どことなく空洞がある……。

戸波の視線は、その空洞をつかみとろうと、支局長の全身に注がれていた。

兵庫製鉄本社の社員食堂は、いかにもこの会社らしい素朴で頑丈な構えである。

高い天井、太くむき出しのコンクリートの柱、飾りけのない無愛想な壁――。

北寄りの窓側は、数枚の衝立で仕切られていて、幹部級が食事をしながら簡単な会議や商談めいたものをしやすくようになつて造られている。それは、中華料理店の大広間によくあるコンパートメントに似ていた。

専務の来客のために運れた昼食を、うどんを済ませて、秘書課へ戻ろうとしていた細川亞紀子は、その衝立の奥から急に呼び止められた。

「細川君、ちょっと」

度の強い眼鏡をみなくとも、それが花房総務部長であることは声でわかった。向い側には広報課長が控えていた。

「まあ、掛け給え」

花房は、ふとい首のまわりを、くしゃくしゃのハンカチで拭いながら、あごで椅子を示した。

平素は、むしろ仕えやすい上司である。切れものらしく冴えは、ちょっとした指図にも現れているが、人間的な深みもあって、つめたい上下関係を感じさせない面がある。

が、きょうは違った。どことなく、この衝立に閉まれた一角の空気全体が、ひややかなのである。

「君ね、来週から、灘浜工場へかわつてもらうことにしたよ」

「は？」

「うむ、工場長付だ。姫野よし子君だったかな、あちらの工場長付の女の子が結婚するので辞めることになつてね、空席ができるんだよ」

「……」

灘浜工場は、新しいが規模は大きくなかった。本社から四キロと離れていないけれど、本社秘書課からの転出というのは、全く異例だ。左遷的ニュアンスが濃厚である。

亞紀子は、急に背筋につめたいものが走るのを覚えた。

（なぜ、なぜ急に私が……）

毎朝新聞の記者である戸波と一夜をともにした。体の

まじわりこそなかつたが、お互の心は急速に、大きく接近した。

そのことと、この異動は、なにか脈絡があるのだろうか。

ゆうべのきょうである。胸騒ぎを押さえきれない……。

しかし、無頓着に、委細かまわずといった調子で、花房はことばを続けた。

「姫野君の後釜では役不足だろうし、しかも本社から転

出というのは不満だろうけど、あそこはあそこなりに大事なポストだ。よろしくたのむよ」

「あのう、私、なにか……」

落度でもあつたのか、と聞こうとして、亞紀子は口をつぐんだ。眼鏡越しの花房の視線に、今まで体験したことのない酷薄さを感じられたからだ。

（ヤブ蛇になつては、いけないわ）

戸波の熱っぽい表情が、脳裏にクローズアップされてくる。

「どうかしたんかね」

「いえ、別に……」

「うむ、そうだ。通勤定期の買い替えが必要なら、庶務で手続きしてもらえばいいよ」

それだけいうと、もう用事はすんだという顔付きになつた。そのまま花房の視線が向かいの広報課長に移る。

二人の男の間に、目にみえぬ目配せが交されたのを亞紀子は感じる。

「では、失礼します」

男たちは、返事もしない。その沈黙が、なによりも冷酷さを雄弁に物語っている。

椅子を立つ。衝立の外へ出かかる。

「細川君」

タイミングをはかつていていたように、広報課長が呼びとめた。

「は、なにか」

「うむ。いや、君、ゆうべ、家へ帰らなかつたね」

あつと、心中で叫ぶ。

「ちよつと用事があつてね、実は、君の家へ夜おそく、電話したんだよ。そうしたら、お母さんがまだ帰つてないつていわれたんで、連絡たのんでおいたんだけど……」

女性的な甲高い声で、課長は一気に説明した。

「だれにも連絡しませんわ」——そういうつて昨夜、亞紀子は戸波のあとに従つた。それは、あらゆる世間の絆を断ちきつて、夜をともにするという決意の表現にほかなし

らなかつた。

そのことに悔いはない。迎え送つた夜の中身についても満足しているといえる。

だが「帰らなかつたね」と、とがつた声で指摘されたとたん、亜紀子の背に再び悪感が走つた。

それは、突然、この二人の男の前で素裸にされたようない、思わず身をかがめたくなるほどの羞恥もまじつて押し殺そとすればするほど、その感情が顔に出た。笑い声が飛び出した。花房総務部長だった。ドスのきいた、腹の底だけで笑つてゐるような声だつた。

「いいんだ。いいんだ。若いうちが花だ。人生、いろん

なことがあるよ」
それだけいふと「もういい、あちらへ行け」と、花房は掌で払いのけるような仕草をした。

廊下を、小走りに急ぐ。

体中が熱く火照つて、自分がいま、どこを歩いているのか、それさえわからぬ。

「人生、いろんなことがあるよ」——花房の声が、どこまでも迫りかけてくる。まるでエコーがかかつたように、ウワンウワンと反響が大きくなつて……。

受話器を通した亜紀子の声は、心なしか震えを帯びていた。

共働きの妻が、昼間、会社でいじめられた話を夫に聞かせるような口調もまじつた。

「ゆうべのことと、私の人事異動と、関係があるのでしようね」

戸波は、答えられない。

「あるに決まつてゐるよ」と胸の奥で叫ぶものがある。だが、口に出すわけにはいかぬ。出せば亜紀子のおびえに拍車をかけるだけではないか。

「当分、おとなしく、様子をみようやないか」

ようやくそれだけ告げた。



「会社の出方や彼らの意図

を、じつと見てみるしかないなあ」

「私たち、しばらく、会わない方がいいみたい」

「私たち」に万感をこめた口調で、亞紀子がつぶやいている。

「うむ、そうやなあ」

歎切れの悪い応答を繰り返しながら、戸波は次第にいらだってきた。

がつちりと粘つこく、蜘蛛の巣のように張りめぐらされた相手のワナに、まんまと引っかかったような気がする。

十重二十重の網の中で、孤立して喘いでいる亞紀子に、手をさしのべてやれないもどかしさも強い。

（なにくわぬ表情で、がんばりつづけるんだよ）

心の中で、くり返す。

おそらく、ポートターミナルか六甲山で、二人が語ら

っているところを誰かに見られているかもしれない。

取材源としての亞紀子を失うことよりも、亞紀子の不安をいますぐ除いてやれぬいらだしさが戸波自身を責めたてる。

「これからは何かあれば君の家へ電話しよう。家族の人にも、僕のこと、多少は説明しといてくれた方がいいかもしないね」

返事はなかった。

事態の急変の中で、戸惑つたまま対応しかねている、そんな亞紀子の心情が、受話器を通して伝わってきた。

「じゃ、また」

聞きとれぬくらいに低い声とともに、電話の切れる音が鼓膜を刺した。

「戸波さん、こっちも電話ですよ」
給仕の少年の声に、われに返る。

警察担当の松岡記者からだった。
「どうも妙な話なんですが、戸波さん、あなた堂本俊夫

「堂本？ あ、知ってるよ。どうかしたの、堂本さん

が」

知っているどころではない。

五年前の争議事件のからんだ裁判で、堂本が無罪の判決をうけた。それを記事にしたばかりに、いまの職場で彼の前歴が明るみに出たのである。そのため、彼は解雇された。

「その堂本がですね、夕方、済川公園の横でトランクにはねられましてね、いま危篤状態なんです」

「なに、ほんまか」

病院からかけているのであろうか、電話の向こう側で多勢のざわめきや、なにやら甲高い声がしている。

「ええ、それでですね、病院へ来たら、堂本の家族が、毎朝新聞にはモノをいわんって、えらい権勢なんです」

言葉がノドの奥でからんだまま出てこない。

あの判決記事を書いたことに対する抗議に来たとき堂本は「親子心中でもせえ、というのか」と声を荒らげた。

あとで支局長が再就職のあっせんをかけたときも、本自身のそれと何ら変わらないのではないか。

彼は、「毎朝新聞の世話をならん」と、つめたく断りに来た。

不慮の輪禍にあつたいま、家族の心情はあるときの堂院は：「

「家族を、なだめ、すかして聞こうとしたらですね、戸波って記者を出せ、あいつになら、いうことはいっぱいあるって……」

「わかった。よし、おれが行く。すぐ行くよ。どこや、

火事を知らせる半鐘が、大脳の奥で鳴っている。真赤な炎に似た血が、五体をかけめぐり逆流してゆく。

支局の急な階段を、戸波は三段ずつ駆けおりていった。

「松ちゃん、どうしたんや」

「どうも妙な話なんですが、戸波さん、あなた堂本俊夫

つづく）

神戸のうまいもんとドリンク

★日本料理

そば吾作
神戸市生田区中山手通2丁目3-17
TEL 242-2858

讃岐名代うどん
あこや亭
神戸市兵庫区旗塚通7-5
トアロード店 TEL 391-2538
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食くれなない
三宮生田新道浜側
KCBビル2F TEL 331-0494

かっぱう花くま
神戸市生田区花陽町45
TEL 341-0240

鍋もの・おむすび
悟味西
神戸市生田区北長狭通1の20
三宮さんちかタウン TEL 391-5319

お茶漬・おむすび
葉もの
小る里
神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 331-5535

たこ焼たちばな
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 蝦夷
神戸市生田区中山手通1丁目115
生田区東門筋東門会館ビル1階
TEL 331-7770

カニ料理 婆婆羅(ばさら)
神戸市生田区北長狭通1丁目18
三宮阪急西口北側レインボーブラザ1・2F
TEL 321-6363

★西洋料理

レストラン アボロン
神戸市兵庫区八幡通5丁目6
TEL 251-3231

レストラン 皮(あらかわ)
神戸市生田区中山手2-9
TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門
神戸市生田区中山手通2丁目98/99
TEL 331-5817

ステーキハウス れんが亭
神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 331-7168

レストラン セントジョージ
神戸市生田区北野町1丁目130
TEL 242-1234

レストラン 男爵
神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode 花屋敷
三宮フラワーロード市役所前
TEL 251-2109

鉄板グリル きやんどう
神戸市生田区北長狭通2-22
TEL 331-1183

レストラン キングスアームズ
神戸市兵庫区磯坂通4-61
TEL 221-3774

井戸のある家 ムーンライト
生田新道新世纪南
TEL 331-5664

レストラン 和蘭陀屋
三宮相互タクシー北入
TEL 321-0230

グリル・鉄板焼 月
神戸市生田区北長狭通1-24
生田神社前 TEL 331-2509

BARBECUE & STEAK 六段
生田区元町通3丁目
TEL 331-2108

Regent House SOFIA(ソフィア)
神戸市生田区中山手通6丁目84
TEL 341-0658

レストラン ハイウェイ
神戸市生田区下山手2-20
TEL 331-7622

ピッツアハウス ピノツキオ
神戸市生田区中山手2-101
TEL 331-3545

レストラン フック東店
神戸市生田区栄町1-5-3
TEL 321-3207

ピザ&スパゲティ ガルの店
兵庫区繕町5丁目1-7
西山ビル1F TEL 241-9025

レストラン ミリオナークラブ
生田区山本通2丁目50の2
レストラン 231-9393~5
メンバーズ 221-1162

club フォーラウエスタン
神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 331-3770

RESTAURANT & BAR ゴックスタッド
生田区山本通3丁目18 回教寺院前
TEL 242-0131

メキシコ小料理亭 ティファーナ
神戸市生田区中山手通1丁目4/12 バールコーポラスビル1F
TEL 242-0043

ドライブ風 音楽レストラン
コーベ・ローレライ
生田区北長狭通6丁目39
TEL 371-0086

★喫茶 にしむら珈琲店
神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221-1872・231-9524
センター街店 神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 391-0669

北野店・山本通2丁目9 TEL 242-2467
(会員制) 3F事務所 TEL 242-1880

喫茶・レストラン パロント
神戸三宮サンプラザ地下 TEL 391-1758
トアロード店 TEL 391-1210

喫茶 ガーディニア
神戸市生田区東町113-1 大神ビル1F
TEL 321-5114

珈琲モーツアルト
神戸市生田区山本通2丁目98グランドマンション1F
TEL 241-3961

club 阿似子
神戸市生田区中山手2丁目89
TEL 331-6069

club 飛鳥
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331-7627

club 小万
神戸市生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391-0638・4386

club さち
神戸市生田区中山手2丁目75
TEL 331-7120

クラブ 千
神戸市生田区下山手通り2丁目21
TEL 391-1077

club なぎさ
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626

club 薙(ふ)き
神戸市生田区下山手通り2丁目 TEL 391-1515

くらぶ ぶーげん
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F
TEL 331-8593

club Moon Light
BAR TEL 331-0886-391-2696
Club TEL 331-0-157

クラブ るふらん
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

★STAND & SNACK ベルビュ・ドール
ドリンク & レストラン

スタンド 英国屋
生田区下山手通2-6 相互タクシー横
TEL 331-1100-331-6600

洋酒ハウス 雜貨屋
(生田新道相互タクシー横上) TEL 321-0260

スタンド グラムール
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

S N A C K MATSUMOTO
神戸市生田区中山手通1丁目32-3
曾根ビル1F TEL 241-5470

カクテルラウンジ サヴォイ
高麗山側 テキの店北
TEL 331-2615

スタンド 晴海(Sei-kai)
生田区北長狭通2-141
TEL 321-2250

DRINKING IS AN ART OF LIFE ウッドハウス
神戸市生田区下山手通り1丁目32
PHONE 078-241-7320

スナック ビジービー
神戸市生田区中山手2丁目
TEL 391-4582

居酒屋 ボルドー
生田新道浜側中央KCBビル1F
TEL 331-3575

Wine and something 珍地理屋
神戸市生田区中山手通り1丁目24-7
大和ナイトプラザ1F TEL 242-0288

サロング 時代
生田区中山手通り1丁目28
シャトウコトブキビル TEL 242-3567

スタジド クラ
生田区中山手通り1の72
TEL 331-6985

洋酒の店 キヤンティ
神戸市生田区北長狭通2丁目3
TEL 391-3060・391-3010

スープとパン店 キャンティ北店
神戸市生田区下山手通り3丁目8-9 TEL 331-3661

DRINK SNACK スネカリッズ
神戸市生田区下山手通り2丁目
水星ビル1F TEL 391-8708

Stand&Snack サントノーレ
ティー&ドリンク 生田区下山手通り2丁目トア・ロード
TEL 391-3822

Salon de roulette サントノーレ
ルーレット教室 神戸市生田区中山手通り1丁目24-7
ダイワナイトプラザ6F TEL 241-1710-221-3886

素吉洞でつさん
神戸市生田区北長狭通1丁目258
TEL 331-6778

STAND マシユケナダ
生田区下山手通り2丁目ちいなタウン地下
TEL 331-5587

スナック GASTRO
神戸市生田区中山手通り3-20
トアマンション TEL 231-0723

スタンド クラブ・ガーデニア
神戸市生田区中山手通り1丁目115
東門筋中島ビル2F TEL 391-3329

バスチャーリントン
生田区北長狭通2丁目 (トアロー)
TEL 332-1125

スナック 比奈古多
とうふ料理 神戸市生田区北野町1丁目143
TEL 241-1306

サロン アルバトロス
生田区中山手通り1丁目24の7
大和ナイトプラザ2F-B TEL (231)3300

スナック エルソタノ
神戸市生田区下山手通り TEL 331-6620

スナック 山莊
神戸市生田区北長狭通1丁目22
TEL 391-5823

スタンド 紋
神戸市生田区北長狭通1丁目41-1レンガ筋
TEL 331-8858

